

放射線治療ってどんな治療?

放射線治療科 吉田次男 医師に聞きました



‘がん’の三大療法のひとつに数えられながら、日本ではまだ対応できる医療機関が少ない放射線治療。当院は、県西唯一の放射線治療施設です。身近で放射線治療が受けられるようになり通院の負担が軽くなったと、患者さんからも大変喜ばれています。

放射線で細胞にアプローチして、がんを効果的にケア

放射線治療とは、文字通りエックス線や電子線を病巣に照射して行う治療のことです。治療の対象になるのは、主に悪性腫瘍つまりがんで、脳、耳鼻、食道、肺、胃、大腸、前立腺、乳房など、あらゆる部位に対応します。現在、放射線治療は、外科療法、化学療法と共にがんの三大療法のひとつと位置づけられており、手術および抗がん剤と併せて用いることで、より効果的にがんを治療できるとされています。

放射線治療には、大まかに3つの目的があります。その第1は、がん細胞そのものを小さくする目的で行なう治療です。その他、術後の転移を防ぐ目的や、手術の前に照射することで事前にがん細胞を小さくしておいたり、手術までがんの進行を食い止めたりする目的で用いることもあります。

また、乳がんなどの温存療法では、放射線治療を行なうことで再発防止の効果が高まるばかりでなく、喉頭がんへの適応など温存治療の可能範囲も広がります。

痛みもなく日常生活を続けながらの治療が可能

放射線治療には、痛みはまったくありません。副作用も、ほとんどありません。放射線は日光の紫外線と同じような電子線です。照射したところが軽い日焼けのような程度で、これも治療が終わればすぐに消えてしまいます。

よく「髪の毛が抜けるのでは?」と心配される方がいらっしゃいますが、放射線は当てた箇所にしかな影響しませんので、頭部以外の治療では、髪が抜けることもありません。

気分が悪くなったりすることがありませんので、治療を続けながら仕事などに復帰されることも十分可能です。

もちろん、当院では入院治療も受け入れており、食欲が落ちた時など体力消耗を極力抑えながらの放射線治療も行なえます。

照射時間は数分ですが、毎日定期的な治療が大切

患者さんは、治療用のベッドに横になっているだけです。ミリ単位の細い線を当てますので、照射の間は動かないようにしていただくことがポイント。とはいえ、放射線そのものの照射時間はわずか1分程度です。馴れればそう難しいことではありません。治療計画を立てるため初日だけは時間がかかりますが、2回目以降は、セットアップを含めても20分ほどで終わります。

ただし、放射線治療は、毎日少しずつ定期的に治療を続けることが大切です。回数は、がんの部位や状況にもよりますが、計10～30回以上。その間、平日は毎日、治療に通っていただく必要があります。

そのため外来で治療を受けられる方は、毎日、病院へ通われること自体が少々大変かも知れませんが、その意味でも、みなさんの身近に、放射線治療を行なう病院ができたことは、本当に意義深いことだと思っています。その分、地域からの期待も大きく、その期待に応えられるよう、これからもスタッフ一同、頑張っております。